

やり直しのできる社会を！

新宿連絡会NEWS

2017.2.7
VOL. 71

新宿野宿労働者の生活・就労保障を求める連絡会議
〒169-0075東京都新宿区高田馬場2-6-10
関ビル106号 NPO新宿気付
TEL.03-6826-7802 FAX.03-5273-6895
<http://www.tokyohomeless.com>

冬 の雑感

笠井和明

どこか懐かしくもある、冬らしい冬である。

年末年始の景色はだいぶ変わった。

こと新宿では、慌ただしい師走のスピード感がそのまま落ちることなく、年末年始も、人が休むことはなくなった。

こうやって、伝統的な季節感は変わる。おまけに暖冬と来たら、この国はこの国かと思うばかりである。

他人が思う程そう大したことのない、年末年始を経ると、東京には本当の冬がやって来る。路上で生活するに当たって、こちらの方が実は厄介であったりもする。

今年の冬は、大寒波の影響であるが、朝夜気温が平年以下の日が多い。こんな日にあまり暖が取れない環境下で横になっても、血圧があがるだけで、寝られるものではない。そもそも乱れがちな生活が、

更に乱れる。健康問題には、すぐにそれは現れず、じょじょに、拡散しながら影響が出、そして、その結果は見えにくいから、あまり問題にもされない。

今まで大丈夫だったから、大丈夫である。本人の意思が、と支援する側も、それに慣れてしまい、自らの力のなさの「言い訳」を本人に押しつけたがる。管理する側も、よほどの苦情がない限り「まあまあ」と、事なかれのルールを作りたがる。

「ニーズの喪失」と年末年始、仮に名付けてはみたが、それは違ふと云うことを年明けの北風が教えてくれた。我々が、色々な「言い訳」をつけ、見ようとしていないだけの話である。

「法律」がまだ有効にも関わらず、社会の側が、どンドンと路上生活者から遠ざかっている。

社会の側が何か分かったつもりで、過去の教条を振り回し、(専門家も学者も団体も権威がつき)それに乗らない人々を特異な存在として放置する。そんな段階に至りつつあると思うのは、私だけであろうか。

このままであると、東京オリンピック観光に来た外国の方々から、「日本では、ホームレスの自立のための法律と対策が15年間も実施され、景気も回復したと云うのに、未だ東京でホームレスの姿を見るのは何故か？」との問いがあった時、答えに窮することであろう。その時、まだ法律が残っているのであれば、現在進行中で、社会は努力をしていると、とりあえず答えられるとは思いますが、その時、専門の法律を失っていたら、本人のせいにするしかなく、さすれば、人権の問題などでも、色々な指摘がある





かと思うのである。

まあ、単なるスポーツイベントの一時的な「見てくれ」の問題よりも、今後の都市の在り方の問題として、屋根と仕事と地域生活復帰につながるセーフティネットをどのように張り、どのように実践し、どのように成果を出していくのかを真剣に考えていかないと、現に目に見えるホームレス問題一つとっても、制度を作ったとしても、それが深化されず、解決した解決したと幾ら言っても、実際は解決の目処すら立たない中途半端なものになりかねない。

オリンピックがあるからと言っても、東京の景気がいつまで持つかは、分からない。循環的、調整的な不況もあるかも知れない。格差社会と言われる今の世では、人々の生活や欲望や困窮も、その姿は刻々と変わり、多様化しつつある。そんな中、居住の問題はホームレス化の大きな要因であるが、東京の高い地代だけは、おそらく変わらないのであろうから、とりわけ単身者層がホームレス化するリスクは、経済や所得に連動する。こんな分かり切ったことすら「対処」や「注目」や「予防策」が恒久的に張られないようでは、困ったものとなる。

もう一回、近寄ってみる。もう一回かかわってみる。もう一回、立ち止まって考えてみる。

今はそう云う頃であろう。それはちょっとしたことで、いつもより1分多くとか、そんなレベルでも良く、「思い込み」を一つだけ廃したり、疑問を持つだけでも良い。我々は何も見えていないし、何もしていないのである。そう仮定するだけでも良い。

この寒さとどう向かい合うのか、そのことを総合的に考えていかなば、お涙頂戴、同情を社会に押し付ける説話にしかならず、どう当事者の側に立ち、仲間と呼び合い、共にどう生きる道筋を作り出すのかと云う、私たちの原点は忘れ去られてしまうし、下層の人々の権利擁護も、能力開発も、明治期の

「貧民発見ルポ」止まりにしかならない。

この寒さの中で横になると云うことの意味は、他に選択肢が見いだせない中でのやむを得ぬ選択なのであろうか。それとも、寒さへの防衛をした上で、自らの意思でその生活を続けているのであろうか。

私たちはその答えが一つでないことも知っているし、朝と昼でその答えが違うことも知っている。また、その答えがどうであろうとも、それを一気に解決する手段を社会が持っていないことも知っている。キャパとの関係で時間差が必要であることと云うことは、その中でとりあえず耐えてくれと云うことでもある。それもまた一つの答えとなる。

ごくごく普通の考えて見れば、より過酷な生活を、自らの意思で選択すると云うのは、修行僧並の意思、もしくはその逆、絶対的な絶望に苛まれていなければ出来ないものである。

生まれてこの方、路上生活のまま一生を暮らす人はいない。少なくとも義務教育に熱心なこの国の児童保護政策はかなり熱心で、今語られている「子供の貧困」の中にホームレス化の問題は含まれていない。少なくとも社会に出るまでは、どのような環境に生まれていても、ほとんどの人々は、畳の上での生活は可能であるのは、今も昔も変わらない。

なので、路上で暮らしている人々を畳の上の生活に移行してもらおうとする考え方は、今の社会の中で、本人にとっても、社会にとっても間違っているとは思えない。

何が問題かと云えば、その選択肢の力が弱いのであり、魅力がない、だけである。

他に選択肢がないから、そして、それに魅力や展望がないから、今の生活を維持してしまう。これは極めて普通であり、特に驚くことでもないし、そのような環境下でも生きることへの執着と工夫は、見習うべきであるが、しかし、それは、恒久的にはなく、一時的なものであり、命と引き換えにする程の大義ではない。

また、大方、稼働能力があったとしても、資本主義的な働き方が苦手であり、苦痛であり、そしてそこまでしても守りたい関係性や、未来の展望はないと云う者も多い。大方、そう云う人々を精神科医は病気にしてしまいがちであるが、今話題の「働き方改革」でないが、NPO的(利益追求的ではない)な働き方と云うのも、一つの選択肢として社会が彼、彼女らに提供してきたのかと云う洞察も必要である。そこそこ社会のために働き、そこそこの収入を

得る。宗教団体などにも、そう云う働き方であり、それはそれで、やりがいはあるし、定着もするが、それを一般的な受け皿としてどう作るのかは、それはそれで様々な実験が必要なのであろう。洞察もせず、実験もせず、かつての失対事業の延長で考えているようでは、お先が知れたものである。

都市雑業への着目は「自立支援法」の一つの成果であるが、東京では着目しただけで、その後、何の発展もなく、それこそ、利益追求業者と、その取り巻き団体に良いように使われているだけである。

企業責任として福利厚生の実が求められている時代の中にあつて、路上生活者を労働力として「もったいない」と、「使う」人々の発想は、未だに「使い捨てライター」のままである。

まあ、普通は苦手、苦手と言いながら、どうにかこうにかしがみつながら働くのであるが、それが沸点に達し、逃げ出すと云うことも、(よく)ある。たいがいは人間関係なんてことにされてしまうのであるが、それで言ったら「良い人間関係」(って、どんな関係だか良く分からぬが)に巡り会うまで転職を繰り返さなければ定着しないことになる。

これも、まあ、労働行政の中では、「ミスマッチ」と分析し、そこから先へと(景気と賃金以外では)進んでいない課題である。

別の法律で掲げられた「中間的就労」などは、予算をとるための「口実」にしかなっていない。

このようにやり残したことが、まだまだあるので、いつも、冬には路上で人が死ぬ。

同情だけでは、かけ声だけでは、能書きだけではどうにもならぬ。具体的な対話と手だてを準備し、実行する力が多く必要なのである。ただ、それだけである。

皆が遠ざかろうとしている時にだからこそ、私たちは、より近づこうとする。そして、具体的な手だてを企てる。

新宿駅早朝、始発電車(結構混んでいるのである)、とある仲間が、シルバーシートを目指し、鷹の目になる。

ようやく座れ、ほっとし、そして瞼を閉じる。

それが短い睡眠であろうが、やはり、眠るには暖

かい場所が良い。寝ている間だけは、それを見ている者からしても、幸せそうで、安心もする。

その暮らしがいつまで続くのか。

今は、結構、それは偶然や、社会の気まぐれに左右されているのかも知れない。

しかし、遅々としてしか進まなくても、その線路に乗り続けていくしかない。そして、私たちも評論家ではなく、そこに入り、それを見、そして、善かれと思う実践を繰り返していかなければならない。

そんな、こんなの越年、越冬であった(越冬はまだ続いているが)。

大晦日、大量に公園へ持ち出した毛布のほとんどが使われてしまい、いざ寝ようと思いきや、薄いシートが一枚しか残っていなかった。急遽、ポケットの中にあつたホカロンを発火させ、シートにくるまり、横になるも、とうてい寝付けるものではない。

仕方がないので起き出し、一人パトロールをしながら、身体を暖めた。

いかに「装備」と「場所」が大事かである。

寝るのにも準備は必要なのであり、そして、睡眠は生きる上で、とても大事であつたりする。

「雨露凌げる場所」と「水場」には、都会であろうが、サバンナであろうが、人であろうが、動物であろうが、本能的に、そこに集うものである。また、造るものである。人の場合は「居心地」と言うものが追加されるが…。

春になれば、また色々なことも出来る。

それまで、耐え続けようと思うのである。



越年 文化班 報告

12月29日、連絡会事務所のある関ビル前の駐車場を借り、東京都から自粛命令が出ていた「餅つき大会」を行なった（もちろん、徹底したノロウイルス対策を施し）。

参加、約80名。餅、お汁粉、焼きそばなどを提供。和気あいあい、一年の労を労った。

12月31日、「年越し祭り」を新宿の公園をお借りして実施。参加者約120名。「ディープユニットひびき」のダンスショー、「五十嵐正史&ソウルブラザーズ」のライブ、「さすらい姉妹」の路上劇を、毛布に包まり、飲食しながら鑑賞（皆様、寒い中ありがとうございます）。また、年越しそばなどを皆で食べ、翌朝まで眠ったり、飲んだり、除夜の鐘を聞いたり、まあ、いつもの、のんびりした催しでした。

年を越す

冬らしい気候になりました。夜は冷え込み、空気が乾燥しています。風邪、インフルエンザ、火事には気をつけよう。

良き年を

一年間、お疲れさまでした。我らの歩みは誰かが見てくれる。なので、しっかりと、前を向いて。

新年あけましておめでとうございます

新年あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

新年の門出は、めでたくなければ、人それぞれではあるが、新年に何をかけるかは、明けない夜の祈願でもある。心願を叶えたい。心願を叶えたい。心願を叶えたい。

新年の門出は、めでたくなければ、人それぞれではあるが、新年に何をかけるかは、明けない夜の祈願でもある。心願を叶えたい。心願を叶えたい。心願を叶えたい。

新年の門出は、めでたくなければ、人それぞれではあるが、新年に何をかけるかは、明けない夜の祈願でもある。心願を叶えたい。心願を叶えたい。心願を叶えたい。

夢は夢のまま

今週後半からは気温が平年並みに落ちるとのことです。1月の厳冬期に向け、もう一度、防寒体制の見直しを。

これからの冬

空気が乾燥しているので、風邪、インフルエンザを筆頭とした感染症群にはご注意ください。気をつけようである。

これからの冬、空気が乾燥しているので、風邪、インフルエンザを筆頭とした感染症群にはご注意ください。気をつけようである。

これからの冬、空気が乾燥しているので、風邪、インフルエンザを筆頭とした感染症群にはご注意ください。気をつけようである。

これからの冬、空気が乾燥しているので、風邪、インフルエンザを筆頭とした感染症群にはご注意ください。気をつけようである。

新宿連絡会
新宿野宿労働者の生活・就労保障を求める連絡会
2017年1月1日 第XIV期 NO109
新宿区高田馬場2-6-10-106NPO新宿寓付 03-6826-7802
www.tokyohomeless.com

新宿連絡会
新宿野宿労働者の生活・就労保障を求める連絡会
2017年1月3日 第XIV期 NO111
新宿区高田馬場2-6-10-106NPO新宿寓付 03-6826-7802
www.tokyohomeless.com

越年パトロール報告

新宿連絡会パトロール班

越年の取り組みを12/29(木)~1/3(火)で行った。うち、31日を除く5日間をパトロールにあてた。異例な短さで、通年で考えられる日程だった。17年は5月に5連休が予定されている。

新宿周辺、近郊におにぎり、カイロ、情報紙を提供。必要なら、防寒具を届けた。寒波、雨天なしに終えた。

期間中、重病者に会わなかった。前後して救急搬送、入院が3件、公園での死亡が1件あった。時機がずれ、「越年」らしさを薄れさす一因となった。年末・年始の活動は暫定で、多くのことがそれ以外で起きる。

パトロールの合間、見舞いへ行った。生活保護の入院は、面会者が極めて少ない。ある調査では、「四十三人の患者のうち、一年間に面会に来た人がいたのは九人だけ」(須藤八千代『歩く日』)とされる。

医療的には体調が戻り、退院で事なきを得る。野宿では、そこから本当の問題が始まる。入院は助走といえる。あちこち面会を重ね、医療現場の質が見えてくる。病院ごとにピン・キリだが、本人に何が向くか単純に決められない。

接する人数は、早い時間帯(17:00-19:00)で普段の3~5割減。他区の炊き出し、仕事などで散る傾向が定着しつつある。昨季同様、余ったおにぎりを数度に分け使い切った。遅くなるほど飯が冷え、固く食べづらい。冬はこの点が悩ましい。

最近の越年のもう一つの特徴は、医療班がパトロールの中心を担う。シフトで人を配し、確実さを保っている。職業的な強みのはずで、尊敬に値する。見習おうとしても、こちらは「ぶっつけ本番」が常。不安定のみならず、負担と権限が偏っていく。

ただ全体として、活動が医療寄りになるのは議論の余地がありうる。専門性の活用範囲は限られている。路上では、通院を前提とする所見がしばしば空回りする。病の露見を恐れる気持ちにかなわない。

社会福祉の文脈から、こういわれる。「…ソーシャルワークへの医療モデル・アプローチは非常に問題である。それは、複雑な社会問題や人間関係の問題を個人の欠陥や『逆機能』に矮小化しているからである」(ニール・ソンプソン『ソーシャルワークとは何か』杉本敏夫訳)。

越年パトロール記録

コース		時間	日付					平均	昨季平均
			12/29	30	1/1	2	3		
中央公園	南	17:00~	63	27	30	33	18	45	52
	北		13	10	12	11	11		
新宿駅	東	18:00~	33	35	27	29	39	71	75
	西		38	52	41	38	22		
西口地下		22:30~	81	95	98	99	95	94	72
延べ計			228	219	208	210	185	210	199

*表中は当該の日、時間、コースで会った野宿者数。単位は人。
*計数の担当が変わり、昨季との比較は参考まで。特に「西口地下」は多めにすぎの感あり。

当事者性を追求する立場では、こんな厳しい指摘がある。「…医者は技術者になればいい。…空手形、空虚な使命感、空虚な自信は有益でないどころか有害です」(立岩真也『弱くある自由へ』)。

最後に、医師自身の言葉より。『『まず害するなかれ』とは医学の鉄則である。不確実な有益性のために確実な有害性を忘れた治療行為をしないということだ」(中井久夫『「伝える」ことと「伝わる」こと』)。

医療と福祉、そして路上。三様の混合を図りつつ、新宿の街を歩きます。



越年概数調査

	今季	昨季
地下広場	111	105
都庁周辺	65	50
駅東口	5	5
西口	32	35
南口	4	9
新宿御苑	26	24
高田馬場	26	24
神宮外苑	10	16
江戸川橋	23	27
紅葉山	1	7
曙橋	7	8
計	293	294

越年の間、概数調査を試みた。終電後、新宿と近隣の各地点で野宿者を数えた。昨季と変わりなく、約300名だった。

今回、「西武新宿」を項目から省いた。駅ビルの改修で、空間が狭まった。他に「駅南口」「神宮外苑」「紅葉山」の減が、同じ理由による。工事がらみで、横たわる場が少なくなった。抽象的な数字の背景に、読み取るべき情報が含まれる。

この調査は、越年のたび行う。効率的な道順や歩き方など、体と頭を使う。技術がいきり、一般のボランティアはほとんどできない。

支援の仕事は、現業に就くのが低く見られがち。大学の研究のほうが高度かつ優れて映る。現場は汚く、荒れている。しかし混乱に向き合った人は、そこに知的な振る舞いがあると気付いている。

分野を問わず、例えば震災救護において。「有効なことをなしたものは、すべて、自分でその時点で最良と思う行動を自己の責任において行ったものであった。…何ができるかを考えてそれをなせ…」(中井久夫『災害がほんとうに襲った時』)。

あるいは、母子の公的な処遇を巡って。「実践者が不確実で、不安定で、…葛藤をはらむ状況にもち込んでいる、実践的認識論を探索すること…」(須藤八千代『母子寮と母子生活支援施設のあいだ』)。

こうした活動は、体系化し共有しにくい。かといって、「経験」や「勘」にも還元されない。実践知をどう受け継ぐか、隠れた課題にあたる。

新 2016-17年 宿連絡会 医療班 越年期集中活動報告

新宿連絡会医療班

医療班の越年期の活動は、一昨年から連絡会の「おにぎりパトロール」に同行する訪問健康相談活動を行っている。野宿者の生活場所に訪問し、健康状態を聞き取り、血圧計測・市販薬提供を行った。また、福祉事務所が開く1月4日に生活保護申請に同行した。12月31日はパトロールを行わず、中央公園で年越しイベントが開催されたため、医療班もイベント会場で机出し健康相談を行った。

活動期間：2016年12月29日から2017年1月4日
まで7日間

活動場所：新宿中央公園・西新宿・新宿駅周辺
(12月29日-1月3日、除12月31日)
東口ルート：中央公園・甲州街道・新宿駅南口・東口・西武新宿駅
西口ルート：中央公園・都庁下・西新宿・新宿駅西口

活動内容：パトロールに同行し訪問健康相談
夕方 東口ルート・西口ルート
(17:00-20:00)
深夜 西口地下ロータリー (22:30-23:30)
：年越しイベント開催中机出し健康相談
(12/31中央公園水の広場、18:00-23:00)
：生保申請手続き同行
(1/4 新宿福祉事務所)

医療班参加ボランティア 26名 (延べ46)

：医師8、歯科医師2、看護職10、薬剤師3、
一般3

提供薬 (延べ数)：風邪薬134、鎮痛薬20、胃腸薬74、
湿布23、軟膏11、マスク102、
絆創膏5

診察

44歳男性 腹部膨満、両下肢浮腫、体重増加 内科に紹介状提供、現在通院中の病院に受診予定

65歳男性 聴覚・言語重複障害者、生活保護希望、
1月4日福祉事務所来所、生活保護申請

昨年の越年期集中活動との比較

昨年と比べ野宿者数は、夕方のパトロールは東口・西口ルート合計で1日平均116名 (昨年125名)、深夜パトロール1日平均94名 (76名)、12月31日年越しイベント120名 (100名)、延べ合計数1170名 (1109名)であった。夕方パトロール時ではやや減少傾向が見られたが、深夜・年越しイベントでは増加しており、全体ではやや増加傾向が認められた。

医療班対応者数は合計で295件 (327件)、血圧計測58件 (59件)、投薬249件 (234件)、診察2件 (5件)、紹介状1件 (4件)であった。昨年に比べ症状の重篤の方は少なく、紹介状を提供した1名は野宿者ではなく支援ボランティアであり、野宿者に対して医療につなぐための紹介状は提供していない。また新宿連絡会のシェルターで保護を要する人もいなかった。

2017年1月14日 新宿連絡会医療班 大脇甲哉

	東口ルート	西口ルート	深夜パト	年越し	合計 (延べ数)
野宿総人数 (平均)	44	72	94	120	1170
医療班対応者数 (平均)	17	15	22	25	295
血圧 (合計)	12	28	12	6	58
診察 (合計)	0	0	0	2	2
紹介状 (合計)	0	0	0	1	1
薬 (合計)	76	54	97	22	249

月に一回チラシに掲載されている「いろりん村便り」。何やら農業のような事をやってるようだけど、こりゃ一体何なんだ？と思って下さっている方に若干のご説明をいたします。いろりん村は新潟県十日町市の山の中に実在します。新潟県と言えばコシヒカリと雪が名物。いろりん村は山間地だから、田んぼは小さな棚田で冬にはなんと5メートルもの豪雪に埋まります。そんなところで都市では出来ない農を中心とする生活をしようとしています。そして出来た米や野菜を新宿の路上やシェアターの人たちに届けられたらいいじゃないか…ってことで始めてみました。

で、何をやっているか？かつてテレビで流行った「ダッシュ村」のようなものと思えばそう間違ってます。自分の力で自分の暮らしを作ります。これはもしかしたら都市の路上や河川敷での暮らしと似ているかもしれませんが。お金も仕事も無ければ、自分で歩いて食べ物を手に入れたい、雨露をしのぐ寝場所を確保しなければならない。それと同じことです。今は主に寝場所作りをしています。何人かが宿泊できるように物置小屋を改装してます。最初に山からの飲み水をパイプで引きこみました。小屋の壁は田んぼの土を塗った土壁。床板は解体した家からもってきた木材。そもそもお金はないので、材料は基本的に拾い集めてきたものです。食べ物はコンビニの賞味期限切れの弁当というわけにはいきません(そもそも近くにコンビニはないもんね)。でも周辺には空いてる田んぼや畑があるし、ちょっと山に入れば食べられる山菜が沢山あります。荒れ果てた畑を耕運機で耕してジャガイモを植えたり、豆をまいたりしました。そうやって自分たちでゼロから作ります。時には近くの農家さんから新鮮野菜のおすそわけもあつたりします。つまり、いろりん村でなにしてる？、生きてます。生活してます。ちょっとぶりだけそう感じています。

まだまだ始まったばかり。関わっている人もほんの数人だけ。参加者はホームレス経験者と未経験者(自称支援者)が半々ぐらい。現地で受け入れのお手伝いをしている私(通称:もーぞーさん)は若いころ新宿に住んでいて、段ボール村の皆さんと縁のあつた者です。

というわけで、いろりん村は怪しいものではありませんが、ここに来たからと言ってお金が稼げるものではないし、すぐに未来が開けるものでもありません。でも、実は自分は都会にゃ向かないんじゃないか…とか感じている人にはお薦めです。虫や草や土や夜空の星が、今までと違う何かを与えてくれるかもしれません。(もーぞー屋)

新宿連絡会 会計報告

2016年度 12月～1月新宿連絡会収支報告

冬場のご寄付、ありがとうございました。
衣類、毛布類など防寒着類も例年より多く寄付があり、大変助かっております。
集まった衣類物品などは、事務所や現場で必要な方々に提供しています。シャワーサービスも常時実施しており、下着類は着替え用として提供していますが、カイロ類は間に合わず、現在、大量に購入して、防寒用に配布を続けております。その他、年末イベント用の食材など、年末年始何かと支出が多くなりましたが、何とか間に合いました。
今後とも宜しくお願い致します。

勘定科目	金額	勘定科目	金額
I 計上収入の部		消耗品費	48,789
1 寄付金収入	960,000	事務用品費	0
		事務所費分担金	80,000
計上収入合計	960,000	衛生管理費	73,440
		支払手数料	43,432
II 計上支出の部		車両費	29,796
1 事業費		修繕費	0
弁当おにぎり事業	96,123		
越年越冬事業	464,753	計上支出合計	888,445
その他活動事業	0	計上収支差額	71,555
2 管理費		前期収支差額	△415,604
旅費交通費	730	次期繰越金	△344,049
通信費	51,382		

●活動カンパ

振込は、郵便振替口座00160-6-190947「新宿連絡会」まで。

オンラインカンパは、<http://www.giveone.net/>「Give One (ギブワン)」(登録NPOを探すをクリックし新宿連絡会を見つけて下さい。)からだとジャパンネット銀行、クレジットカードで寄付が可能です。

●郵便物、物資カンパの送付先は以下の住所にお願いします●

★郵便物は

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場2-6-10関ビル106号 新宿連絡会 宛てでお願いします。